

# 集中治療部

## 1 構 成 員

	平成 24 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	3 人	(3 人)
助手（うち病院籍）	0 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	1 人	
医員	2 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	6 人	

## 2 教員の異動状況

土井 松幸（特任准教授）（H5. 8. 1～H24. 1. 31 講師；H24. 2. 1～現職）

小幡由佳子（助教）（H23. 4. 1～現職）

御室総一郎（助教）（H23. 4. 1～現職）

板垣 大雅（診療助教）（H21. 3. 1～H23. 6. 30 退職）

川島 信吾（診療助教）（H23. 7. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 23 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0 編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3 編	(3 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	4 編	(4 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(6) その他（レター等）	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	

### (3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 土井松幸, デクスメデトミジンの新たな展開, 臨床麻酔 35: 419-428, 2011
  2. 土井松幸: せん妄への薬の使い方を具体的に教えてください. レジデントノート 13: 1242-1247, 2011
  3. 土井松幸: モニタリングを検証する 中枢神経: 脳. 麻酔 61: 5-15, 2012  
インパクトファクターの小計 [ 0.00 ]

### (4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 御室総一郎, 佐藤重仁, デスフルランの使い方, 武田純三, 10 合併症患者の麻酔: 心不全, 喘息患者, その他 2011

### (5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 板垣大雅, 石田千鶴, 青木善孝, 木村哲朗, 小島康裕, 土井松幸, 佐藤重仁: 中毒性表皮壊死症に対するデクスメデトミジンの使用経験 日本集中治療医学会誌 19: 91-92, 2012  
インパクトファクターの小計 [ 0.00 ]
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
1. 佐野秀樹, 永田洋一, 堀悦代, 足立裕史, 小幡由佳子, 佐藤重仁: エアウェイスコープが有用であった喉頭蓋嚢胞合併症例. 臨床麻酔 35: 863-865, 2011
  2. 鳥山若菜, 栗田忠義士, 足立裕史, 鈴木祐二, 小幡由佳子, 佐藤重仁: 濃化異骨症の麻酔経験. 麻酔: 60:496-498, 2011
  3. 入江直, 永田洋一, 足立裕史, 浦岡雅博, 小幡由佳子, 佐藤重仁: 軟骨無形成症に対する腹臥位の全身麻酔経験. 臨床麻酔 35: 105-106, 2011  
インパクトファクターの小計 [ 0.00 ]

## 4 特許等の出願状況

	平成 23 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

## 5 医学研究費取得状況

	平成 23 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	1 件	(169 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	( 0 万円)

(3) 他政府機関による研究助成	0件	(0万円)
(4) 財団助成金	0件	(0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件	(0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	0件	(0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

科学研究助成事業(基盤研究(C)), 光ファイバーカテーテルを利用した血液ブドウ糖濃度の連続測定法の開発, 平成23-26年度, 研究費の総額 520万円

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	1件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	5件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	3件
(6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際学会等開催・参加

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

招待講演: Matsuyuki Doi, Dexmedetomidine the primary sedative in critical care. 31st Annual Conference of the Korean Society of Critical Care Medicine, ソウル市(大韓民国), 2011年4月

5) 一般発表

口頭発表

Mimuro Soichiro, Accuracy of Non-invasive Measurement of Hemoglobin using Pulse CO-Oximetry in an Intensive Care Unit 米国麻酔学会、シカゴ、アメリカ合衆国 2011年10月

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

日本麻酔科学会第58回大会

第19回日本集中治療医学会東海北陸地方会

日本麻酔科学会東海・北陸支部第9回学術集会

日本臨床麻酔学会第31回大会

第39回日本集中治療医学会学術集会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本集中治療医学会: 評議員, 機関誌編集委員, 将来計画委員

日本麻酔科学会: 社会保険専門部会員, 外保連検査委員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1件	0件

- (3) 国内外の英文雑誌のレフリー  
3回, Journal of Anesthesia (日本)

## 9 共同研究の実施状況

	平成23年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成23年度
産学共同研究	0件

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

- 脳波による中枢神経障害の予後の早期予測法の検討  
心肺蘇生後の脳障害の予後の早期予測を目的として、皮質脳波モニターと聴性誘発電位モニターの比較試験を実施した。
- 重症患者での血液ブドウ糖濃度連続測定を目指して、光テクノロジーを応用する方法と皮下組織のブドウ糖濃度測定を応用する方法の2つの研究を実施した。

## 14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

- 聴性誘発電位モニターは、麻酔深度定量法として長く研究を続けてきた測定法の脳障害予後判定への応用である。
- 光テクノロジーを用いた血中微量物質定量法の研究成果を基礎にして、ブドウ糖濃度測定法へ応用した。